

C. 建議に向けて

館田 慎宣（東京工業大学）：HDP 専門委員

「世界にはばたくIHDP研究」

(1) 会場の意見を踏まえて

本日の議論を踏まえて、幾つかの提案を行いたい。日本学術会議の第17期において登録された、1,222の学術団体のうち、約700の団体がHDPに関連したものであると思われる。この中で、学術会議におけるHDPの国内委員会としてのJHDPの果たすべき役割としては、次のようなことが言えると思う。

学術会議は、国内の学問の中心であると同時に、国際的にも日本の学問を代表する場である。従って、国際的に求められる役割を整理すること、及び、その役割を十分に果たせるよう、情報技術を活用したネットワーク形成を推進する必要がある。

また国内的には、学術会議のHDP専門委員会が中心となり、従来のような産官学の3者による情報交換の範囲を超え、一般市民を巻き込んだ形での活発な情報交流の推進を図る。そして新しい学問の在り方を示しつつ、日本独自の哲学のもとに、多数の学会、小委員会の協力を得ながら、HDP研究体制の活性化を図ることが必要である。

(2) 今後の予定

HDPの専門委員会から、本日ご参集いただいた12学会を中心に小委員会設立の呼びかけを行う。また、さらに広い範囲の学会にも呼びかける形で、HDP研究体制を活性化していく。具体的にはまず1～3月までの間に、諸先生方の協力をいただいてHDPの活動報告を対外的にまとめる。その際、何らかの形で市民の意見を取り入れる機会を作りたいと思う。次に、その報告書に関して関係者の意見をいただいて内容を深め、学術会議からの建議、もしくは勧告という方向に向けて検討していきたい。

最終的には、従来、学問分野・学会・個人の間で垣根が高いと言われてきた人文・社会科学系の研究の風通しを良くし、先行しているといわれる自然科学系の研究と共に地球環境問題を解決していきたい。

また、政府機関による広範な財政的・人的支援、新機構の設立などについては非常に心強く思っているが、学術会議へのより一層のご支援もお願いしたい。